

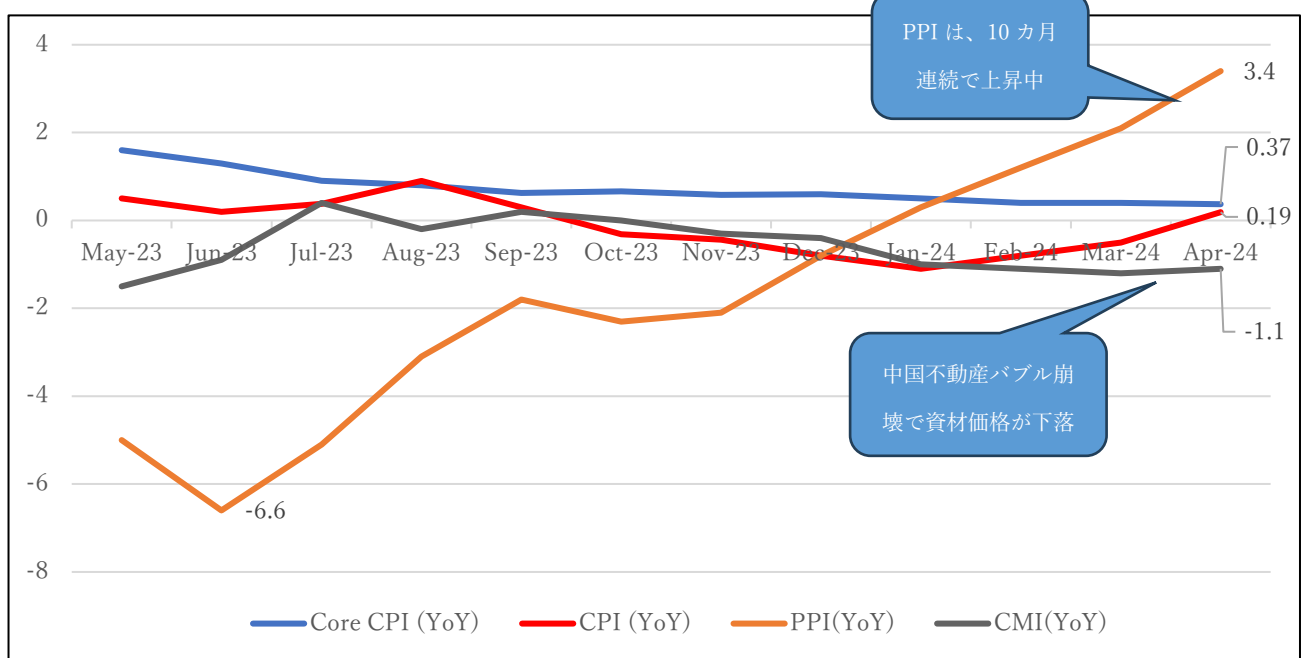
タイ経済指標斜め読み

(2024年5月版)

ビジネスサポート部
加藤義人
kato@mat.co.th

1. 【指数統計：産業景気指数】

タイ商務省傘下の貿易政策戦略庁 (Trade Policy and Strategy Office) は、4月の消費者物価指数 (CPI)、コア物価指数 (Core CPI)、生産者物価指数 (PPI)、建設資材物価指数 (CMI) を発表した。下記グラフは、前年同月比 (%) での値となる。



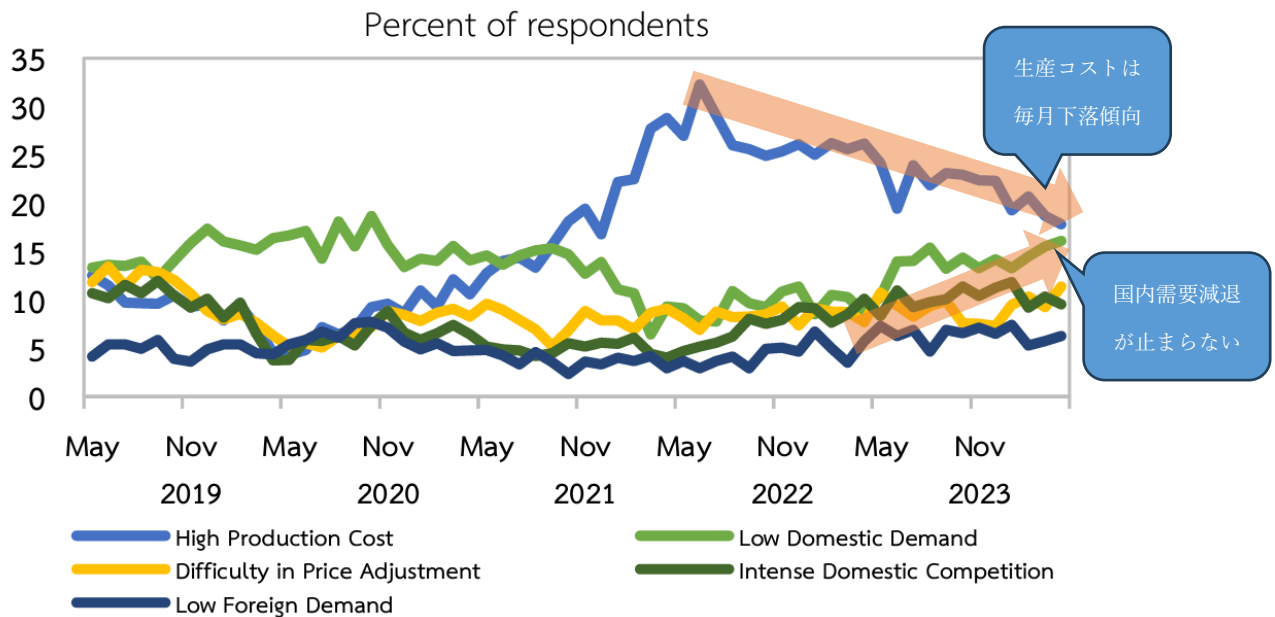
Core CPIとは、消費者物価指数 (CPI) のうち、すべての対象商品から生鮮食品を除いて計算された指数のことを示す。正式な名称は、生鮮食品除く総合指数。生鮮食品とは、生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物のこと。

4月のコアCPI前年同月比は+0.37%、CPIは+0.19%、PPIは+3.4%、CMIは-1.1%となった。CPIの上昇は、主に石油価格の上昇が最大で、フルーツ類や野菜類が猛暑による不作で値上がりした。次にPPIだが、中東情勢の悪化で石油価格上昇に伴い、石油から作られる製品のプラスチックやゴムなどの工業製品が上昇した。CMIに関しては、中国の不動産に関わる経済悪化から、鉄鋼価格が下落したことや、セメント価格も競争激化により価格が下がったとのこと。

出所：<https://www.price.moc.go.th/>

2. 【調査データ：ビジネス上の問題点】

タイ中央銀行は、4月のビジネス上の問題点に関する調査を実施した。

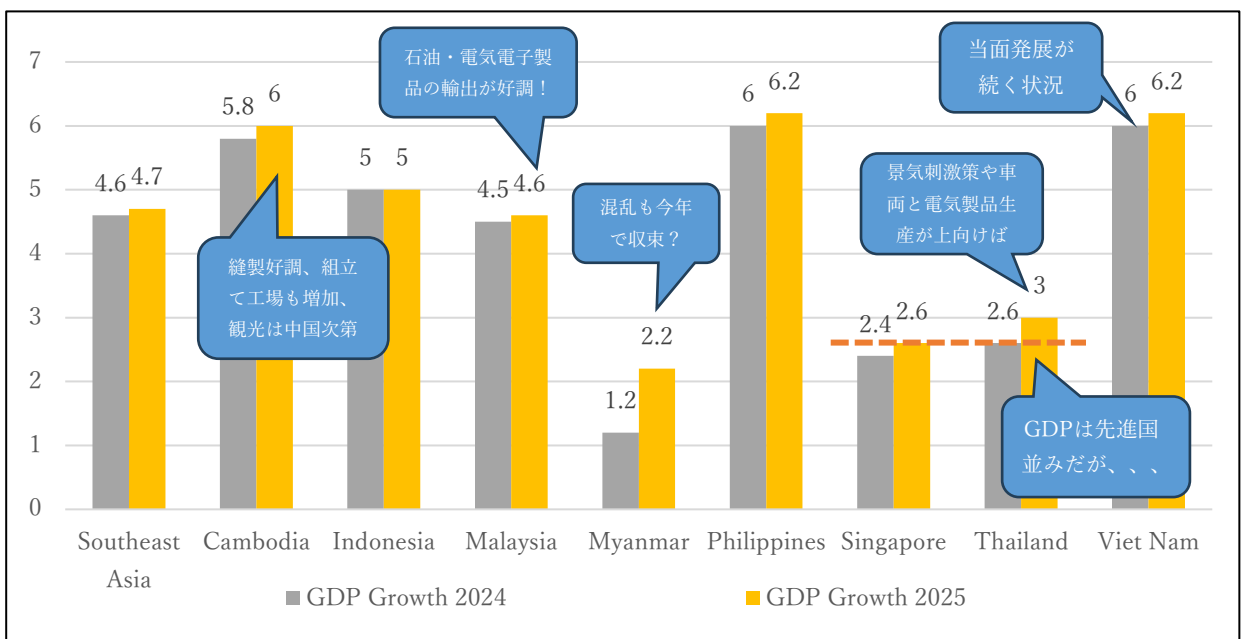


製造コスト高は、依然最大の課題だが、毎月右肩下がり改善している一方、国内需要減や価格調整の難しさなどは、1月以降徐々に割合を増していることが見て取れ、インフレ率の上昇と重なっており、今後もこの傾向は続く模様。国内競争の激化に関しては、24年になってから下落傾向となっているのは、外国人観光客増加に伴う宿泊施設や飲食店の稼働率が上昇したことも一因と思われる。

出所：<https://www.bot.or.th>

3. 【データ：アセアンGDP】

アジア開発銀行は、2024年と2025年のGDP予想値を発表した。



既にタイのGDP予測値は別のデータでご連絡しているのでご存じだとは思いますが、今回は東南アジアに於けるGDP予測値の比較となります。このグラフでは、シンガポールが先進国、マレーシアとタイは中進国、それ以外は発展途上国の扱いとなります。

す。傾向として、発展途上国の方がGDPの割合は高く、先進国では同値は低くなる傾向があります。タイのGDP予測は24年で2.6%、25年で3.0%と先進国のシンガポールレベルでマレーシアと比較して発展度合いが遅い状況で、俗に言われている「中進国の罫」から未だに脱出できない状況。一方、マレーシアも同じようなことが言われているが、GDP予測値を見る限り力強い発展を遂げており、数年後には先進国の仲間入りを果たす勢い。

出所：<https://www.adb.org/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2023 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。